

どんな環境に生まれ育っても、  
こどもが明日に希望を持てる社会を実現する



# こども明日花 プロジェクト

平成29年度活動報告







 **こども明日花 project**  
平成29年度活動報告



代表の思い	1
こども明日花プロジェクトとは	2
私たちのビジョン・ミッション	2
年間行事	3
事業報告	4
学習支援～さくらさく学習3	4
居場所づくり～なのはなクラブ～	6
こども地域包括支援	8
ボランティアさんの声	10
支援者の声	12
情報発信	13
決算報告	14





## 代表の思い

### こども明日花プロジェクトの2年を振り返って

3年前（平成27年）、テレビや新聞で「子どもの貧困」という言葉をよく見るようになりました。「母子家庭で、お金がないので進学を諦める」「ごはんを1週間食べていない」などという状況とともに、各地のNPOなどの団体による様々な支援活動も紹介されていました。国も生活困窮者支援対策による「学習支援」などの取組を始めていました。

そんな中、「山口でも何か始めないといけない」という思いを持ったメンバーが集まり、話し合い、みんなの力で人（ボランティア）とお金（活動資金）を集めて行動しよう、と「こども明日花プロジェクト」がスタートしました。

私自身は「子どもたちにご飯を食べさせたい」「勉強できる場を作りたい」という一心で、「無料学習会+昼食（おむすび）付」をぜひやりたいと思い、県のモデル事業として「居場所づくり+夕食付」と一緒に28年7月から始めることができました。参加する子どもたちも、協力してくださるボランティアも、そして、私たちスタッフも、みんな初めての経験でしたが、回を重ねる毎に、互いに仲良くなり、子どもたちの話を聞き、ボランティアからの提案もいただき、私たちも少しずつ慣れていきながら、今の形になってきました。ずっと変わっていないのは、子どもたちの笑顔が私たちへの最高の励みであり、力を与えてもらっているということです。参加してくれる子どもたち、温かく子どもたちを見守ってくれるボランティアの皆さん、私たちの活動を理解して、資金や物資を提供していただく、多くの皆様や企業の方々のおかげをもちまして、活動を始めて2年が経過しました。

活動を続ける中で、当初考えていた食事や学習といった直接的な支援だけではなく、もっとやらなければいけないという思いが募ってきました。それは、より多くの方々にこの現状を正しく理解してもらい、参加や支援を促すこと（普及・啓発）、また子どもたちを支える担い手の育成を図ること（人材育成・研修）、さらには行政や地域、学校、その他関係の皆様と連携して、地域で親と子が孤立しないように、みんなで支える仕組みをつくること（包括的な支援体制構築）であり、この積み重ねにより、子どもたちが明日に希望を持てる社会の実現という、ミッションを達成できると信じています。

今後もこども明日花プロジェクトへの御理解と御支援をよろしくお願いします。

認定NPO法人 山口せわやきネットワーク

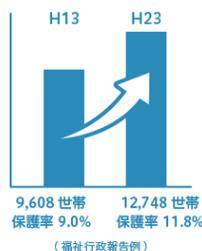
こども明日花プロジェクト

代表 児玉頼幸

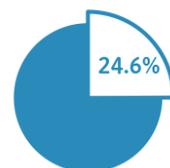


日本の17歳以下の子どもの7人に1人(全国で約260万人)が経済的な貧困状態にあるといわれています。山口県では生活保護世帯は10年で3,100世帯増加、ひとり親世帯は2,700世帯増加し、就学援助を受ける子どもの人口も全国平均に比べ10%高く、子どもを取り巻く状況は年々と厳しくなっています。

## 山口県の生活保護世帯数



## 山口県の「就学援助」を受けた小中学生



全国 3 位

(文部科学省、山口県教育委員会調べ)

一見普通に見えても、家庭の事情や経済的な理由で、十分な食事をとれていなかったり、勉強にまったくついていけなかったり、社会から孤立してしまっている子どもたちが、山口県にもたくさんいます。こども明日花プロジェクトは平成28年5月に発足し、山口市内で経済的な理由や家庭の事情で困難を抱える子どもたちを対象に、安心して過ごせる「居場所」と「学びの機会」を提供しています。また、身近な大人が子どもたちを見守り、支える「地域」をつくるため、こども地域包括支援を推進しています。こども明日花プロジェクトでは「子どもの貧困」は個人ではなく、私たち社会、地域全体の問題であると考えています。他人ゴトではなく自分ゴト。子どもたちは「わたしたち地域の明日の花」です。

## 私たちのビジョン

どんな環境に生まれ育っても、こどもが明日(あす)に希望を持てる社会を実現する

## 私たちのミッション

1. 子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの環境を提供する。
2. 身近な大人が子どもたちを見守り支える地域をつくる。



### 居場所づくり

子どもたちが、安心してありのままに居られる場所を作ります。多様な体験を共にすることで、子どもの成長を育みます。



### 学習支援

子どもたちが、自由に勉強できる場を提供し、学ぶことを通じて、彼らが将来に希望を持てる応援をします。



### こども地域包括支援

家庭の事情や、経済的理由により困難を抱える子どもを地域で支える仕組みづくりをお手伝いします。





## 「参考」主な活動

29年	4月24日	山口県共同募金会「赤い羽根テーマ型募金」助成交付式
	5月14日	平川ごはん会開催（地域交流センター 50人参加）
	5月21日	タマネギ収穫体験（連合山口県央協議会様協力8名参加）
	5月28日	「子どもの問題」啓発セミナー（周南市徳山保健センター 100名参加）
	6月19日	「子どもの貧困対策宣言企業（株式会社TAMARU）」調印式
	8月	連携協定企業 株式会社TAMARUにて高校生3名「1日仕事体験」
	8月27日	「子どもの問題」啓発セミナー（萩セミナーハウス 30名参加）
	8月29日	山口ザビエル記念聖堂（山口市）に寄付つき自動販売機設置（4台目）
	9月23日～ 10月7日	子どもの貧困問題に取り組む「地域コーディネーター」養成研修＜基礎研修＞ 200名参加（宇部市・萩市・岩国市・周南市）
	10月21日	厚生労働省こども家庭局 吉田学局長 視察（なのはなハウス）
	10月22日	徳地少年自然の家・リンゴ狩りツアー（50名参加）
	11月12日	子どもの貧困対策全国キャラバンin山口 （公益財団法人あすのば・山口県共催 100名参加）
	11月20日	山口市こども家庭課「子どもの居場所づくり事業情報交換会」
	11月26日	竹林体験とぼんぼらづくり（由宇山間地域活性化研究会様協力 名）
12月21日	山口県共同募金会「赤い羽根テーマ型募金」活動団体認定式	
30年	1月	「赤い羽根テーマ型募金（29年度分）」募集開始（～3月末）
	1月19日	内閣府「子どもの未来応援基金」ネットワーク事業（2期）助成決定
	1月21日	「子どもの問題」啓発セミナー（下関市生涯学習プラザ 35名参加）
	2月4日～ 11日	子どもの貧困問題に取り組む「地域コーディネーター」養成研修＜専門研修＞ 130名参加（宇部市・萩市・岩国市・周南市）
	3月19日	山口市こども家庭課「子どもの居場所づくり事業情報交換会」
	3月31日	山口市「居場所づくり事業」28年度事業終了 実績報告提出

### 資金調達

#### 助成金等申請

- ・内閣府・福祉医療機構「子供の未来応援基金」第2期ネットワーク事業＜採択＞
- ・国立青少年教育振興機構（子どもゆめ基金）＜採択＞
- ・やまぐち子ども・子育て応援ファンド助成事業＜採択＞
- ・山口県共同募金会（赤い羽根テーマ型募金：2期）＜採択＞

#### 子どもの貧困対策宣言企業（3社）

H28 株式会社池田建設、サン・ロード株式会社、

H29 株式会社TAMARU

#### 募金箱（50ヶ所）

寄附付自動販売機（4台） ※協力：日本コカコーラ・ウエスト株式会社

H28サン・ロード株式会社、防長苑

H29マツダ防府工場、山口ザビエル記念聖堂



## さくらさく学習会

### 参加者の対象

ひとり親や経済的ハンデを抱える家庭の中学生

### 活動目的

高校進学を目指して、つまづきからの学び直しを含め、一人ひとりの状況に合わせた学習を支援する学習会です。勉強だけでなく昼食や行事も取り入れ、生徒の居場所づくり・仲間づくり・意欲づくりにつながるようチームでサポートしています。

### 活動概要

市内3か所で週に一回学習会を行っています。各会場20名程度の登録があり、毎回10名前後の生徒たちが通ってきています。各教室では社会人のマネージャーを中心に、学生たちがそれぞれの生徒の状況に応じて学習支援をしています。学習をがんばった後は、調理ボランティアが作ってくれる季節感と栄養たっぷりの昼食を皆でいただいています。また、必要に応じて行政・学校・専門機関などと情報交換し、居場所支援や食事支援につなぎました。

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
白石	H29.4.8~H30.3.31	45回	383人	208人	120人	328人
平川	H29.4.8~H30.3.31	39回	281人	162人	101人	262人
小郡	H29.4.8~H30.3.31	37回	187人	123人	65人	188人
	計	121回	851人	493人	286人	779人



### ＜白石＞登録者 8校 27名

今年度のさくらさく学習会では、最後まで学習会に来て取り組んだ中3生全員が志望校に合格しました。「合格したよ!」と明るく報告してくれた際には、胸を撫で下ろすとともに、なんとも言えない充実感がありました。また学習会后、学校の愚痴や友人関係の悩みなど...ポツツとボランティア等に話してくれることもありました。「つながり」も深くなり、良き居場所になっているのかな?と嬉しく感じています。

「さくらさく学習会」は、多くの皆さまの温かい想いのもと、「チーム」として子ども達を育てていると実感しています。私もチームの一員として、少しでもお役に立てるよう、微力ですが頑張ります!「オール明日花」で子ども達のさくらを育てていけたら…。

(白石マネージャー 仲子)

### ＜平川＞登録者 5校 25名

平川学習会では、今年度は学習支援に力を入れて活動していました。中学3年生が志望校に合格したと聞いた時には、自分のことのように嬉しかったです。

また、学習ボランティアの大学生が多く、子どもたちと歳が近いためとても仲良くなっています。調理ボランティアの方が作ってくださる美味しい昼食をみんなで食べることで、これも子ども達が学習会に足を運びきっかけの1つだと感じています。

今後はさくらさく学習会が、学習支援だけでなく、地域の居場所支援としても、定着させていきたいと思っています。

(平川マネージャー 今村)

### ＜小郡＞登録者 4校 15名

学習会にいつも時間より早く来る子どもたち。「今日は弱点克服プリントを作ってきたよ」と勉強を教えるボランティアの意気込みも負けていません。いつも明るく笑顔が素敵な子が多いですが、家族や進学の話が出ると急に顔を曇らせる時があります。

ご家族から「将来子どもが働きたしたら寄付をして恩返ししたいと話しています。」とメッセージをもらいました。家族だけでは解決が難しい問題も、身近な大人が寄り添い支えることで、子どもたちに希望の花が咲かせられるよう、これからも力を尽くしていきたいと思えます。

(小郡マネージャー 阿部)

## 1. なのはなクラブ

### 参加者の対象

ひとり親や家庭に困難を抱える家庭の小中学生 ※高校生のアフターフォローも行います。

### 活動目的・概要

ひとり親や家庭に困難を抱える子どもたちを中心に、安心して過ごせる居場所づくりを土曜の午後に行っています。家庭や学校以外の居場所をつくることで、孤立を防ぐとともに、ボランティアと話をしたり遊んだり食事をしたりして共に過ごす中で子ども達の成長と自信を育むことを目的としています。

なのはなクラブは一軒家を借りてアットホームな環境で行っております。宿題をしたり、室内で遊んだり、近くの河川敷公園に行って外遊びをしたり、各々が自由に過ごします。中高校生は、学習が中心ですが、リラックスして話をしたり、食事づくりを手伝ってもらうこともあります。そして18時になると皆で夜ご飯を食べます。家庭的な環境が毎週同じ時間にあることで、子どもたちが少しでも居場所と感じてくれるような活動を目指しています

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
なのはなハウス	H29.4.8~H30.3.31	47回	589人	266人	139人	405人



### 子ども達の様子や感想

なのはなクラブ終了後には子どもたちの様子を共有します。ボランティアが、子どもの良さを発見し伝えてくれることで、子どもたちについて知らなかったことを発見したり、個々の成長を感じる機会が何度もあります。

昨年度中学3年生だった子どもが、高校生になっても引き続き参加しています。プライベートな話もしてくれるようになり、今後、就職や進学など次へのステップをサポートしていきたいです。

2年目にして週に一度なのはなクラブに参加することが、子どもたちの日常の一つになってきたことを感じます。なのはなクラブは地域になくはならない居場所のひとつとなっていると感じます。





## 2. ののはな体験プログラム

### 参加者の対象

ひとり親や家庭に困難を抱える家庭の小中高校生

### 活動目的・概要

家庭に困難を抱える子どもたちは、なかなか季節のイベントに参加したり、多様な体験の積み重ねが難しい状況にあります。子ども明日花プロジェクトでは、季節の行事や自然体験などの様々な体験、子どもの関心事、また興味のある職業を体験してもらうことで、子ども一人一人の自信と成長、そして主体性を育むことを目的としています。

平成29年度は、市民団体や個人からのお誘いをいただき、玉ねぎ掘りや芋掘り、ぽんぼら飯づくりの体験活動やパントマイム鑑賞を行いました。また、子ども未来基金の助成を受け、徳地青少年自然の家でのTAP研修、阿東でのりんご狩りを行いました。高校生に対しては、こども明日花プロジェクトの貧困問題対策宣言企業である株式会社TAMARUのもとで職場体験も実施しました。



### 子ども達の様子や感想

自然の中に身を置いたり、何かを作ったりする体験をする時の子どもたちの顔は輝いています。普段のののはなクラブでは見せない顔を見せてくれたり、一生懸命お手伝いをしてくれたりしました。今の子どもたちは、「あれをやってはダメ」、「これをやりなさい」と言われることに慣れすぎているのかもしれませんが、自主的にやりたいことを自分の責任でもってやる、ということ学ぶためにも、様々な体験が必要です。来年度からは、大学生や地域の方々も巻き込みながら、体験活動を充実させていこうと思います。





## 1. ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）

### 参加者の対象

ひとり親とその家族、プレひとり親

### 活動目的・概要

明日花シングルカフェは、ひとり親家庭のQOL（クオリティ オブ ライフ）の向上を目的に、仕事・家事・子育て等に追われ生活を振り返る余裕すらないひとり親に、ゆったりと過ごす時間や普段後回しにしがちな生活課題について考える時間と空間を提供するものです。

会場を「山口県母子・父子福祉センター」に、日時を同センターの休日相談日（偶数月の第3日曜日）に設定することにより、ひとり親が同センターに足を向ける契機をつくり、支援と繋がりやすい環境づくりを図っています。

ひとり親の日頃気になっているちょっとした課題を解決するセミナーの開催と、ゆったりと過ごす時間の中での思いの共有、自然発生的なピアカウンセリングを、自身もひとり親であるスタッフが丁寧にサポートします。

セミナーの間は大学生を中心としたボランティアが子どもたちの遊び相手になったり、勉強をみてくれることで親は安心してセミナーを受けることができます。また兄弟のいない子の疑似兄弟体験にもなり、情操を育む機会にもなっています。

#### 開催セミナー

6月	キャリアコンサルタントによる仕事のはなし
8月	ファイナンシャルプランナーによるお金のはなし
10月	パーソナルスタイリストによる装い講座
12月	ネイリストによる指先ケア
2月	親子アンガーマネジメント講座



### 子ども達の様子や感想

ひとり親は日々の生活に追われ情報を得にくい状況にあったり、スティグマからグループ化されることに懸念を感じるため、集客に大きな課題を感じました。今後はコンテンツや広報の更なる充実を図り多くのひとり親が繋がる機会を作りたいと考えています。カフェ会では、スタッフが当事者であることから、当事者にしかわからない不安や思いの共有等、短時間で繋がりを構築できる当事者支援の強みが活かされていました。

セミナーはその後の個別相談やカフェ会での意見交換に活かされました。指先ケアは毎回人気があり、残業やワンオペ育児でつらい時、きれいに整えられた爪先を見ることで心が癒されまた頑張れるとの声がありました。





## 2. 普及啓発

子どもたちに対する直接的な支援も必要ですが、今の子どもたちが置かれている状況やそれに対する対策の現状をより多くの人々に知ってもらい、支援の輪を拡げていく活動も大切であると子ども明日花プロジェクトは考えています。セミナーや研修の場を通して、より多くの方々に子どもの貧困に関わる状況を正しく理解してもらい、実際の地域での支援活動に結びつけられるように、積極的な普及・啓発活動を行っています。県内に同じ思いを持つ「仲間」が増えていることを大変心強く思っています。今後、さらに連携・協力の輪を拡げて参ります。

### ① 「子どもの問題」啓発セミナー

子どもの貧困問題に対する正しい理解を広めるため、子どもの貧困問題の現状と解決の必要性、山口県内の取組事例紹介、意見交換などを行いました。

＜周南会場＞（平成29年5月28日、周南市徳山保健センター）100人

＜萩会場＞（平成29年27日、萩セミナーハウス講堂）35人

＜下関会場＞（平成30年1月21日、下関市生涯学習プラザ）30人

### ② 「子どもの貧困に取り組む仕組みづくりセミナー」

（平成29年11月、防長青年館）

全国的に活動している、子どもの貧困対策センター公益財団法人あすのばが開催している「子どもの貧困対策全国キャラバン」をあすのばと山口県と三者共催で開催しました。貧困問題への理解促進や実践者の研修とネットワークづくりを図るとともに、特に県内の大学生に呼びかけ、県立大、山口大、徳山大、岩国短大の学生がスタッフとして、運営に参加しました。参加者：100人

### ③ 研修事業

山口県子ども家庭課からの委託を受けて、各市町において子どもの貧困対策の事業実施を担える「地域コーディネーター」を養成するため、基礎研修と専門研修を県内4カ所（宇部市、萩市、岩国市、周南市）で開催しました。

参加者：基礎研修200人、専門研修150人





## 学生ボランティア

ふゆか

有本 風優香さん（山口県立大学4年）

私は、社会人や学生、子どもたち、様々な年代の人が一緒に活動することも明日花プロジェクトで、みんなから「あーりー！」と呼ばれる度にあったかい気持ちになります。

私が実際に会った子どもたちは、黙々と自習する子、分からないところが分からない子、おんぶが好きな子、ルールもない謎の遊びで盛り上がる子など、様々です。

しかしどの子にも必要なのは、今傍で気に掛けてくれる「〇〇さん」がいることだと感じています。

子どもたちのかけがえのないこの時期に、親や先生の他に小さなSOSに気付くことができる親しい第三者の目があることは、実は貴重なことなのだと気付くことができました。同時にそれを担う一人として、私も一緒に成長していきたいと思います。

## 学生ボランティア

林田 久司さん（山口学芸大学2年）



私は大学の掲示板で明日花の活動を知りました。貧困の家計の子供たちとはどのような状態なのか興味があり参加をしようと決意しました。

ここに来る子供たちはとても明るくて活発な子供たちが多いです。

最近はみんなで作るような一面も見られるようになり、私では思いつかないような物を作っては「凄いやろ！」と自慢してくれる子供もいます。

貧困といっても、子供たちは決して悲観的ではありません。活発な子供たちが多く、むしろ我々大人たちがあっけにとられることもあります。そうした活動をこれからも続けていき、少しでも未来の子供たちのためになるような関わりをしていきたいです。



# ボランティアさんの声



社会人ボランティア  
やおし  
矢通 健生さん

私がこども明日花プロジェクトに携わるようになったきっかけは、たまたまインターネットで子どもに関わるボランティアを探していて見つけたからです。居場所づくりで参加し、子ども達と遊んだり、ご飯を一緒に食べたりする時間がとても楽しく、今も関わらせていただいています。ここでは子どもが自分の好きなことをして過ごしているので子ども達は笑顔でいます。その一方で、不意に家や学校で嫌なことや困っていることを話してくれることもあります。その時は子どもの話を受け止め、一緒に考えてあげるようにしています。少なからず家庭環境に問題がある子どもが来ているので、安心して過ごしてもらおう場所をこれからも作っていきたいと思っています。



社会人ボランティア  
青木 直美さん

調理ボランティアは毎回他のボランティアさんや子供達と過ごせるとっても楽しい元気チャージ場所です。作った料理を子供達が「おいしい〜」って何度もお代わりをしてくれること。時々エプロンを持ってきて作る所から手伝ってくれたり、子供と関われる時間が大好き。調理担当は子供達と関わるのは食事をする時くらいですが、もっと一緒に料理をしたり、遊んだりといった時間ももてたらいいなと感じています。ここでの経験が子供達の将来、どこかの役に立ってくれると嬉しいなと思います。実は私、“超”料理オンチなんです。ボランティアさん達は幅広い年齢層で、いろいろな職種の方の集まりなので学びの場でもあります。冷凍庫に眠っている食材の活用法や保存方法。食材を無駄なく使う工夫など毎回参加するたびに勉強になり私にはなくてはならない大切な場所です。





## 子どもの未来応援企業

株式会社 池田建設 代表取締役 池田直人 様

こども明日花プロジェクトの活動を聞き、子どもたちには誰でも「チャンス」がある社会でなければいけないと思い、こども明日花プロジェクトの活動を応援することにしました。企業として、社会・地域貢献、そして未来を背負う子どもたちを支えていくことはとても重要であると考えています。今後は普及啓発にも力を入れながら、子どもの未来応援企業として活動していきます。

## 募金箱設置場所

西京旅館 長安 里枝 様



こども明日花プロジェクトに調理ボランティアとして参加させて頂く中で、こども達や携わる方々との大切な出会いがありました。募金箱はお客様が必ず通られるフロントに置かせて頂いています。募金して下さる多くのお客様に「ありがとうございます」という言葉だけでは感謝を伝えきれないことを知りました。

## マンスリー募金

原田 洋子 様



わたし自身母子家庭で育ち、戦後の大変な時に様々な境遇の子どもたちの姿を見てきました。現代は貧困が見えにくく、子どもたちの辛さも見えにくい時代だと感じています。

子どもたちが安心して食べたり、勉強できるというのは最低限必要なことだと思います。市内から離れていてなかなか具体的なサポートが難しいですが、私にできることで応援させていただいています。

明日花の活動がこどもたちに「一人ではないよ」というメッセージを送る手立てになりますように応援しています。



# 情報発信

フェイスブック 平成28年4月開設

ホームページ 平成29年1月開設、ブログ掲載

ニュースレター 年4回発行（平成29年4月、7月、10月、30年1月）

日付	発信メディア
7月24日	山口新聞「活動開始から1年」
8月 9日	エフエム萩「子どもの問題」啓発セミナー告知（生出演）
8月30日	萩ケーブルビジョン「子どもの問題」啓発セミナーのニュース
11月 9日	中国新聞「11/12全国キャラバン」告知記事
11月14日	tysテレビ山口ニュースタイム「全国キャラバンなど」
11月17日	NHK山口放送局 ラジオ「やまぐち人権インタビュー」
12月 7日	NHK広島放送局 同 中国地方で放送
1月31日	朝日新聞 知事選関連 なんのなクラブ取材
3月14日	中国新聞（中国総合紙面）

時期	対象・名称	場所	人数
H29.4.18	山口西京ライオンズクラブ	山口市（ホテルニュータカ）	30人
5.16	岩国市社協「福祉のつどい講演会」	岩国市（由宇文化会館）	200人
6.3	やまぐちネットワークエコー「女性学講座」	山口市（婦人教育文化会館）	40人
7.6	宇部市小中学校管理職員人権教育研修会	宇部市（万倉ふれあいセンター）	40人
7.13	防府市倫理法人会「モーニングセミナー」	防府市（防府グランドホテル）	30人
7.24	美祢市中学校教育研究会人権教育部会	美祢市（大嶺中学校）	15人
8.26	山口県母子寡婦福祉大会	山口市（県教育会館）	250人
8.29	山口県央ロータリークラブ例会（卓話）	山口市（山口グランドホテル）	40人
9.8	山口南ロータリークラブ例会（卓話）	山口市（ホテルニュータカ）	25人
10.17	平生町民生委員児童委員研修視察	山口市（さぼらんて）	30人
11.7	小郡地区民生委員児童委員協議会講演会	山口市（小郡地区社協）	35人
11.9	周南市社協熊毛支部くまげ福祉推進大会	周南市（三丘徳修館）	80人
11.22	山口県児童入所施設連絡協議会職員研修会	下関市（生涯学習プラザ）	70人
11.22	山口県議会環境福祉委員会正副委員長説明	山口市（山口県議会）	4人
12.21	リクルート次世代教育院長小宮さん意見交換	山口市（なんのなハウス）	10人
H30.1.19	大内地区社会福祉協議会研修会	山口市（翠山荘）	50人
2.7	福祉医療機構訪問（子供の未来応援基金）	東京都（福祉医療機構）	1人
3.20	NHK広島 番組取材対応	山口市（県庁）	1人



# 平成29年度収支

収入	項目	金額(単位:円)
	寄付金	2,032,207
	会費	0
	委託料	5,198,760
	助成金	2,433,436
	雑収入	30,036
	繰越金	1,620,000
	収入計 ①	11,314,439
支出	項目	金額(単位:円)
	人件費	4,207,957
	通勤費	73,200
	法定福利厚生費	482,754
	福利厚生費	9,124
	委託費	26,460
	諸謝金	2,659,804
	印刷製本費	116,683
	旅費交通費	844,474
	消耗品費	195,758
	消耗什器備品	4,998
	諸会費	141,881
	会議費	26,262
	通信運搬費	275,757
	地代家賃	803,000
	動産賃借料	0
	不動産賃借料	365,596
	修繕費	6,264
	光熱水費	116,831
	保険料	104,222
	食材費	597,383
	新聞図書費	55,509
	支払手数料	165,661
	支払寄附金	0
	広告宣伝費	5,605
	租税公課	196,424
	減価償却費	0
	雑費	67,933
	事業費計 ②	11,549,540
	管理費計 ③	0
支出合計②+③=④	11,549,540	
収支=収入①-支出④		▲235,101

## ＜再掲＞事業別内訳

事業名	事業費	主な財源
①学習支援、啓発	6,447,854	子どもの未来応援基金、赤い羽根テーマ募金、繰越金
②居場所づくり	2,621,697	山口市委託料、寄附金
③養成研修	2,002,047	山口县委託料
④生活支援	22,091	寄附金
⑤仕組みづくりセミナー	173,443	県子ども子育て応援ファンド助成
⑥体験ツアー	282,408	子どもゆめ基金助成
合計	11,549,540	







こども明日花  
project

こども明日花プロジェクト  
(特定非営利活動法人山口せわやきネットワーク)  
〒753-0054 山口市富田原町4-45 なのはなハウス  
TEL:070-7562-1187 FAX:083-901-1165  
ホームページ:<http://asuhana.org>  
Eメール:[info@asuhana.org](mailto:info@asuhana.org)



子供の未来応援国民運動

子供の未来応援基金の支援を受け実施しています。

